



授業サポート報告書②

実施日：2020年12月23日(水)2時限目(10:40～12:10)

授業科目：地域空間論IVb〈アメリカの社会と文化〉(担当教員：山本桂)

「地域空間論IVb〈アメリカの社会と文化〉」は全学共通教育科目で全学部1～4年生を対象に開講されている科目です。アメリカの観光に関する多様な事例に触れながら、アメリカの文化を読み取り考察できるようになることを目標としています。

Zoomを利用したリアルタイム授業に、ピアサポーター2名が授業サポートとして参加しました。

当日の授業では、「観光に影響を与えるメディアの功罪」をテーマに、グループディスカッションを行いました。受講者は前回の授業で、今回と同テーマ(「観光に影響を与えるメディアの功罪」)にて「功」「罪」どちらかの事例を調べ、ワークシートを作成しています。今回の授業は、事前課題としてワークシートで分析したメディアについて逆の視点から考察し、功罪両方の視点を持った上での参加が大前提となっています。

＜当日のグループディスカッションテーマとグループワークの詳細＞

アメリカの観光地(観光体験)を伝えるメディアの事例から、その観光地に対して

①どのようなプラスの側面を与えていると考えられるか？

②どのような問題を生み出すと考えられるか？

・グループでは、①と②について各自が調べ考えてきたことを発表し、ポイントを絞って(鋭い視点やユニークな視点など)議論を深めてみてください。

・全体発表では、共有したい事例と考察を1分にまとめて発表してください。

受講者数が約150名と大人数であるため、全体を2班に分け、前半と後半で同内容の授業が行われました。各班約10グループ(1グループ4～7名)に対して、教員とピアサポーターが協力して全てのグループを回りました。まんべんなくディスカッションのファシリテーションに入ることで、タイトなスケジュールにもかかわらず、学生たちは十分に議論することができ、全体セッションにおける各グループの発表時間も確保できました。また、各グループでのリーダー・発表者をスムーズに決めるために、予めイントロダクションの中で教員から学籍番号での担当者決め説明が行われるなど、オンライン授業を円滑に進める工夫と配慮が各所に見られました。

ピアサポーターは、Zoom上の出欠確認のためのネームタグ変更(学籍番号 氏名)サポートや、ディスカッション時のタイムキープ、ファシリテーターとして担当グループの活発な意見交換を促すのはもちろんのこと、「功」「罪」どちらかに偏りそうになったグループに対しては、両方の視点での議論を促したり、議論が抽象的になっている場合は固有名詞を出した具体的な事例を引き出したディスカッションを受講者に意識させたりするなど、授業内容にも踏み込んだサポートを行いました。

グループディスカッション後の発表では、身近な報道、映画、SNS、観光案内サイトから、観光メディアアプリといった新しいツール、また、このコロナ禍で注目されているオンラインでの旅行ツアーやスポーツ観戦、美術館訪問等、様々な固有名詞が出てきました。そこからプラス面・マイナス面が簡潔に述べられ、具体的な事例を元にグループ内で意見交換が活発に行われたことが伺えました。

山本先生は学生に対し広い視野を持つよう常に呼びかけ、また、他者と意見を共有し合うことで新しい発想を生み出してほしいという想いから、オンライン授業においてもディスカッションを重視されています。

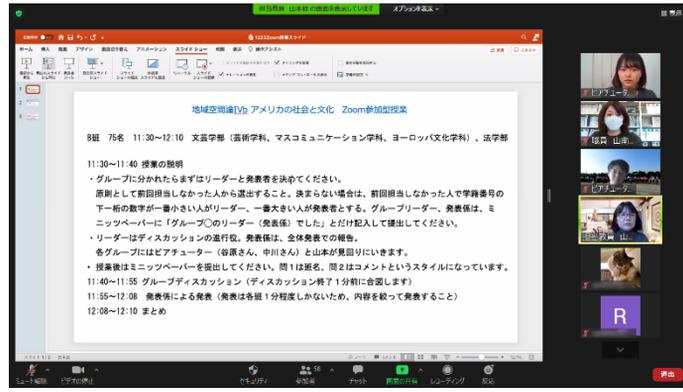
前期開講の「地域空間論IVa」でもピアサポーターが授業サポートに入っており、そこでの反省を元に事前に学生と職員間での振り返りを行いました。その後、山本先生にも事前打合せを行っていただき、授業の流れを把握しながらテーマに即したサポートを行うことができました。

教員・職員・学生が共に取り組むことで、サポーター自身が成長しながら授業サポートの質も向上できるよう、活動の継続とノウハウの蓄積をしていきたいと思っております。

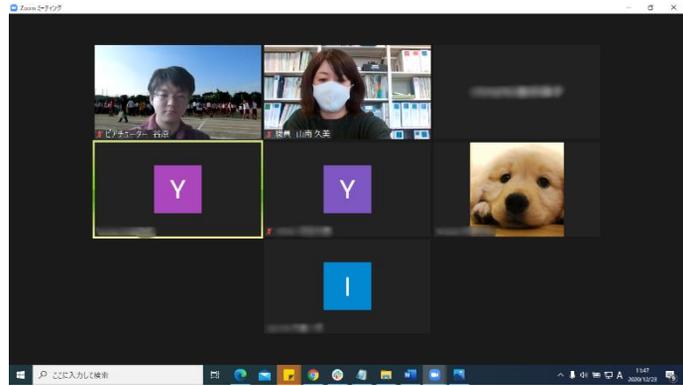
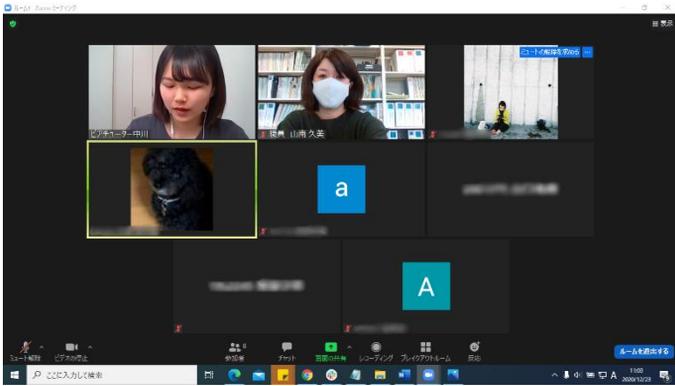
当日の様子



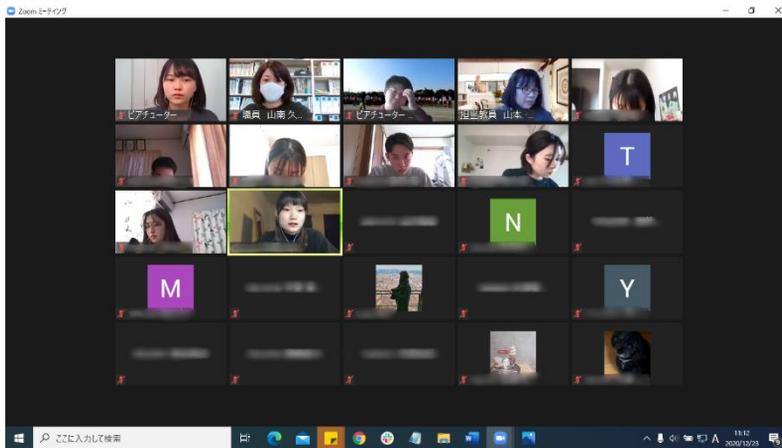
授業開始前に先生と本日の動きについて打合せ（画面左上は山本桂先生）前半と後半の間にも先生とサポーターで気付いたことを共有し、次の授業に活かすことができました



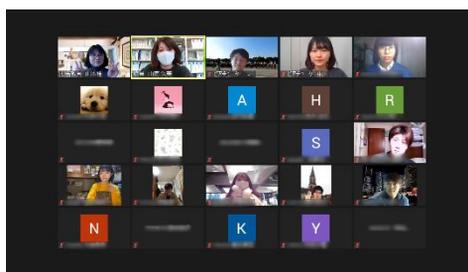
ネームタグ変更サポートをしながら、受講者と一緒に先生からのイントロダクションを確認！



役割分担ができているか、ディスカッションが進んでいるか、確認を取りながらサポートを進めます



各グループの発表から、山本先生によるまとめを聞き、授業の全体を把握します



受講者みんなで笑顔で記念撮影！！